

八ヶ岳、ジョーゴ沢、赤岳

日程:2007年12月31日~1月3日

メンバー:L平本、斉藤(記)

豊富なバリエーションルート、美しい岩峰の稜線を持つ八ヶ岳にて、経験未熟な私が冬山の厳しさ、楽しさ、美しさを堪能する事ができました。

行程:

10/31 本厚木駅南口 6:30~美濃戸口 9:30~

13:20 赤岳鉱泉 付近にてピーコントレ

1/1 赤岳鉱泉~ジョーゴ沢 F2にてアイストレ

1/2 斉藤体調不良にて停滞

1/3 赤岳鉱泉 7:30~7:55 行者小屋~9:30 赤

岳山頂~赤岳展望荘~12:30 赤岳鉱泉 13:55

~15:10 美濃戸山荘~16:00 美濃戸口

山域:八ヶ岳

12/31

6:30 に本厚木駅にて平本さんをピックアップし八ヶ岳へ向かう。天気予報では、数日前より日本海側では、大雪が降っており、1/2 頃までは、続々らしい、八ヶ岳は、いかがなものか。

計画が決まった時から、会の方々より「冬のヤツは寒いよ。」と聞かされていたので、少々不安がよぎる。中央道を下り山梨に入ると山に雲がかかり始める。美濃戸口に車を止めスタンバイ。多少、雪がちらついているが、付近の積雪は少ない。赤岳鉱泉へと歩き、途中美濃戸山荘にて、休む。13:20 赤

岳鉱泉に到着。大型連休中という事もあり、テントは色鮮やかなテントでいっぱいだ。テントを広げ昼食をとり、付近にてピーコンの作動確認、使用方法を平本さんより教えて頂く。ピーコンを雪に埋めて探し当てる、というものだ。「なるほど。」とピーコンの性能に感心させられる。しかし、平本さんは、自分のピーコンが壊れている事が発覚し、ショックが隠しきれない様子。

1/1

朝、ゆっくりと食事をとり、ジョーゴ沢へ向け遅めの出発。F1 に着くとすでに、2 パーティーほどが、取り付いている。右側の緩斜面を使いアイゼン歩行訓練を行う。他パーティーがトップロープをかけているため、F2 へと進む。F2 を、荷物をデポ後登り、ジョーゴ沢上部のゴルジュ帯付近まで歩き、待機中冷えた体を温める。その辺りまで来ると雪面がカリカリにしまっている。相当強い風が抜けたのだろうか。正面に巨大な岩が聳え立ち、その隙間に沢が伸びる。天候が悪いせいか、恐ろしい雰囲気だ。引き返し F2 落ち口より、トップロープを垂らし下降。トップロープ用の支点がある事に驚く。すっかり、ゲレンデ状態だ。F2 をトップロープにて何度も繰り返し登る。氷をアックスで何度も打ち込む私を見て「そんなに打ち込まなくても、引っ掛けるだけでいいんだよ。」と平本さんからのアドバイスを頂き、大変、登り易くなる。買ったばかりのアイゼンに初めはとまどいがあったものの慣れてくるにしたがって、アイスクライミングの楽しさに夢中になる。

その晩、夕飯も終え「さて寝る前に、トイレで

も行って来るか。」と思ったその時、「腹が痛い。」それから、朝方まで、便所通いと寒気が続く。体を冷やしたのが原因か？

1/2

平本さんに起こされるも、昨夜からの体調不良で起き上がる事すら出来ない。本来なら、今日は阿弥陀岳から硫黄岳への縦走の予定。だが、体中の水分も元気も抜けてしまった様だ。結局、平本さんは硫黄岳方面へ一人で出掛け、私は1日中寝込むはめに。平本さんへの申し訳なさと体調管理の重要さを思い知らされる。ここがまだ、赤岳鉱泉だったから、良かったものの、もし、状況が違っていたら……

夜には、何とか体調も回復し、明日の帰り途中でアイスをやる、という予定を、赤岳へのピークハントに変更してもらう。

1/3

朝食後、スタンバイを終え、7:30 赤岳へ向け出発。ルートは、行者小屋>文三郎尾根>赤岳山頂>地蔵尾根>行者小屋>赤岳鉱泉である。天気予報では、今日あたりから、良くなるという予定なのだが、辺りは、まだ、霧に包まれている。行者小屋を越え、文三郎尾根の急な上りが続く。高度を上げるにつれ、風がうねりをあげる。さすがに、寒い。9:30 赤岳山頂にたつ。360°の大パノラマと云いたいところだが、残念ながら360°霧に包まれている。記念写真を撮り終え横岳方面へ降り始めると雲が少しずつ、切れ始める。東側が見え、阿弥陀岳が見え、横岳、大同心、小同心と順に姿を現し始めた。赤岳展望荘

まで下り、小屋の中にて暖かいコーヒーを頂き暖をとる。再び外へ出ると小さな雲をいくつか残し晴れ渡っていた。思わずオーバーグローブを外し風に打たれながら写真を撮る。素晴らしい景色だ。稀にこんなご褒美を与えてくれるから、皆、厳しい冬山に足を運ぶのだろう。これが見ただけでも、来て本当に良かったと思えた。地蔵尾根を少し下ると先程までが、嘘のように風が無く、ポカポカと汗ばむほどだ。太陽の光をうけキラキラと輝く樹林帯抜け、行者小屋に着くとそこは、みんな待ってましたとばかりに、カメラを構え、撮影大会といった感じた。樹林帯の上から頭を出した西陽に輝く阿弥陀岳、赤岳、大同心の絶好の撮影ポイントだ。赤岳鉱泉に着き、昼食を摂り、テントを撤収し13:55 帰り路につく。駐車場に着く頃には、陽も傾きまた夜が始まるうとしていたが、疲労以上に充実感の残る山行であったと思う。色々あったが無事楽しく終えられた事は、リーダーの平本さんに感謝するばかりです。



赤岳展望荘と赤岳